

# 岩村城跡の発掘調査

## 岩村城跡第4次発掘調査の成果（中間報告）

現地説明会資料／平成23年12月3日  
恵那市教育委員会

### 【岩村城の歴史】

標高717mの通称城山に築かれた山城。俗に創築800年といわれていますが、これは加藤景廉の遠山荘地頭補任にちなんだもので、現在の山城が築かれ始めたのは16世紀はじめごろと考えられています。遠山岩村氏の居城でしたが、元龜年間以降、城主はめまぐるしく交替します。

遠山氏最後の当主景任は、織田信秀の妹を室に迎えていましたが、一貫して武田軍団の一員として行動していました。元龜3年（1572）の夏に景任が病死すると、織田信長は、この機を逃がさず、子の御坊丸を養子に送り込み、岩村城を奪取します。これに対して、武田方は11月には城を取り返すことに成功し、秋山虎繁を城主としました。天正3年（1575）長篠の合戦で武田が大敗すると、信長は直ちに嫡男信忠を総大将として岩村城を囲みましだ。半年に及ぶ籠城の末に城は落城し、虎繁は処刑され、城内の甲信の兵や遠山氏の家臣は皆殺しにされたといえます。その後、河尻秀隆、団忠正が城主となり、小牧長久手の合戦後は金山城主森忠政の属城となりました。

関ヶ原合戦直前には田丸直昌が四万石で入りますが、西軍に属して改易され、慶長6年（1601）に徳川譜代の松平家乗が2万石で入部しました。現在見られる石垣造りの近世城郭は、家乗の整備によるものです。

### 【発掘調査の目的】

岩村城跡の今後の国史跡指定、保存や整備に向けた基礎的なデータの収集のために、平成20年度から5年計画で次のようなことを調べています。このうち発掘調査では、④～⑨を主に調べています。

- ① 城山の環境
- ② 城山の地形とそれをうまく利用した城の範囲（縄張り）の把握
- ③ 石垣の位置と状況
- ④ 石材をどこで調達したか
- ⑤ 城山の上に、最初に城を築いたのはいつごろか
- ⑥ 山をどのように削ったり掘ったりして城を作ったのか
- ⑦ 現在のような立派な石垣を持つ城に整備されたのはいつか
- ⑧ 最初にあった城をどのように改造、整備していったのか
- ⑨ 廃城後から今日に至るまで城に手が加えられているが、昔の遺構はどの程度残っているか

## 【調査概要】

遺跡名称	岩村城跡（岐阜県史跡）
調査箇所	①八幡曲輪・龍神社裏（八幡神社跡）②八幡曲輪・一ノ門脇侍屋敷
調査面積	約130㎡
調査理由	岩村城の今後の国史跡指定化、保存や整備に向けた基礎的なデータの収集 平成20年度から5年計画で実施している調査の4年目
調査期間	平成22年10月12日～12月16日

## ◎八幡櫓及び土塀の基礎を確認

八幡曲輪の最高所の遺構の遺存状況を確認するため、トレンチ（調査用の溝）を設定して調査を実施しました。その結果、八幡櫓（二重櫓）及び土塀の基礎を確認しました。二重櫓のひとつ及び土塀の基礎構造がはっきりとしたことで、岩村城の建造物の具体的な姿を明らかにする上で、重要なデータを得ることができました。

- |     |  |
|-----|--|
| 八幡櫓 | <ul style="list-style-type: none"><li>・礎石列の規模（外縁）桁行6.3m、梁行5.4m、石列の幅0.45m</li><li>・石列の内部で束柱の礎石を検出→1階は床張り</li><li>・明治6年の払い下げ史料に3間×2間半、同8年の史料に7坪5合（面積）と記載。想定される建物規模は桁行5.4m梁行4.5m→礎石列の内縁の規模と一致</li></ul> |
| 土 塀 | <ul style="list-style-type: none"><li>・1列の石列と土塀築土と考えられる硬く締まった赤土を検出。</li><li>・基底部の厚さは約1.2m（4尺）。</li><li>・通常外側にあるべき基礎の石列は未検出。→流出したものとみられる。</li></ul>   |

調査範囲では基礎の改修の痕跡は認められず、江戸時代を通じて櫓、塀の規模は変わらなかったと考えられます（土木作業を伴わない建て替えの可能性はある）。

## ◎一ノ門脇侍屋敷跡の概要を把握

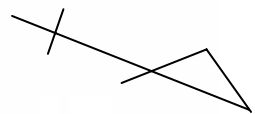
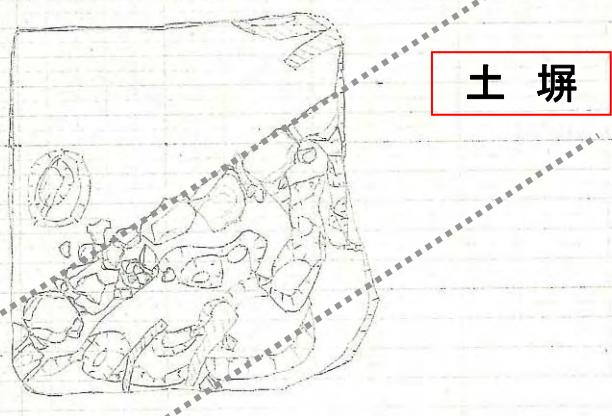
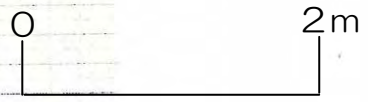
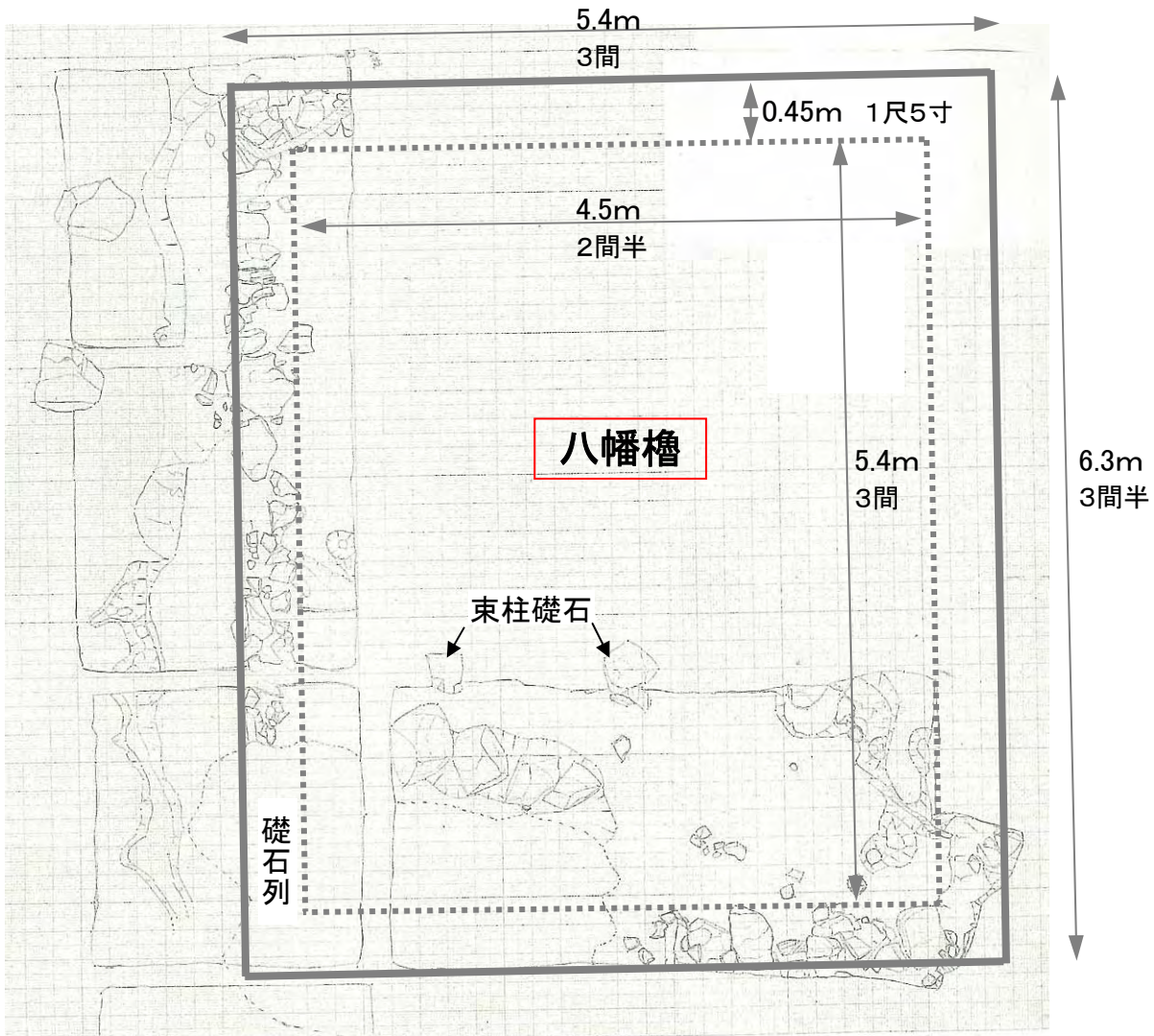
平坦面の中央にトレンチを設定し層位や遺構の状況を確認しました。その結果、近年の整備工事により遺構面はかく乱されており、遺存状況はよくないことが判明しました。平坦面の端のトレンチでは「正保城絵図」に描かれている櫓の有無の確認を目指したが、このような状況のため、確認することはできませんでした。

かく乱層の下は、直下が地山のところと厚い盛り土のところがあり、曲輪の造成の過程を示していると考えられるので、慎重に調査を進めています。

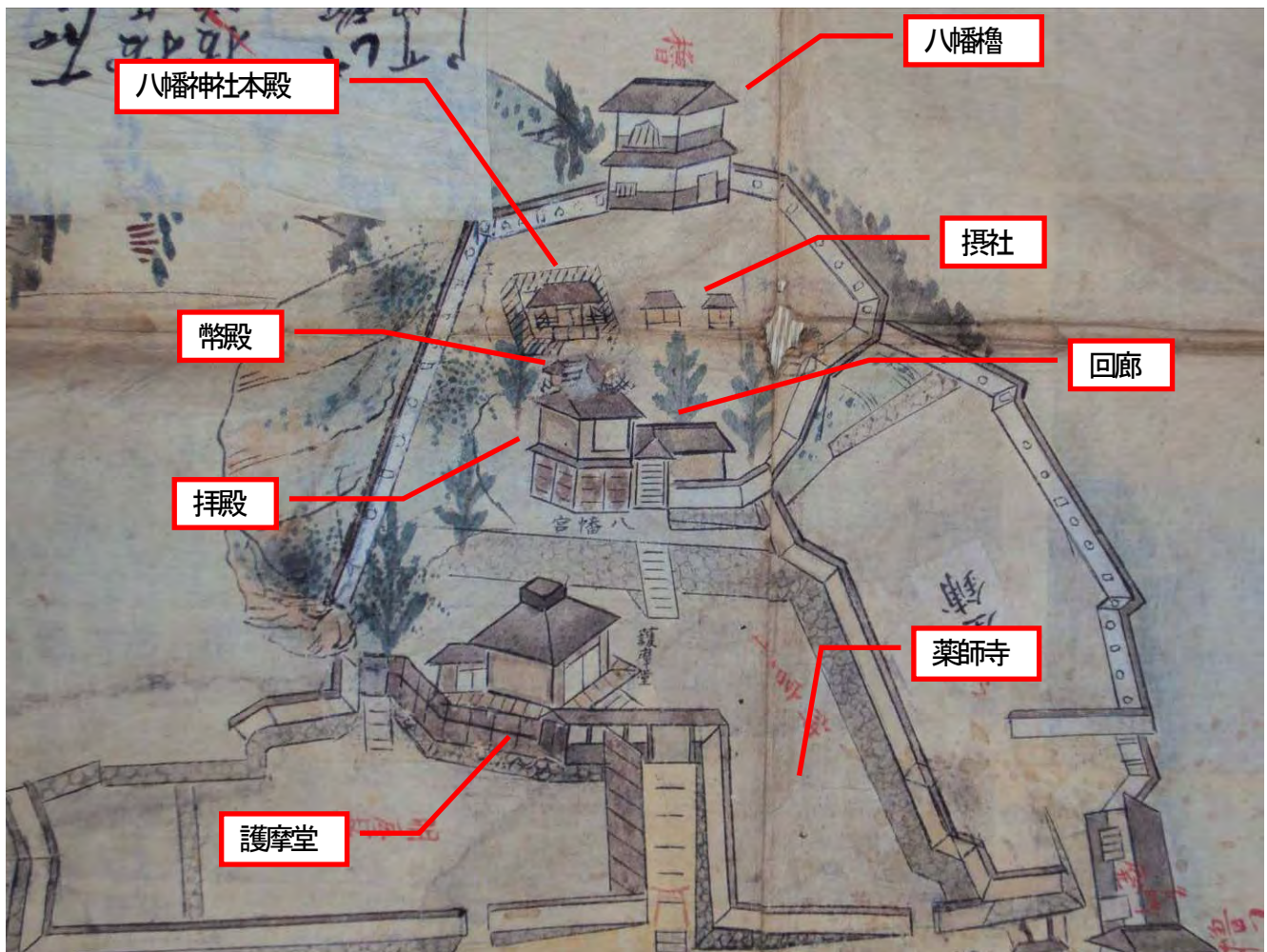
### 中井均氏（特定非営利活動法人 城郭遺産による街づくり協議会理事長）のコメント

今回の調査で、築城当初の姿を描いたとみられる「正保城絵図」（1645ごろ）に描かれている櫓の平面が初めて確認された。北方の尾根筋を押さえる重要な場所に当初から櫓を構えていたことが分かった。これまでの調査では、キャンプ場等によるかく乱のため築城当初の状況ははっきりしておらず、今回の櫓の検出はその意味で重要な成果である。

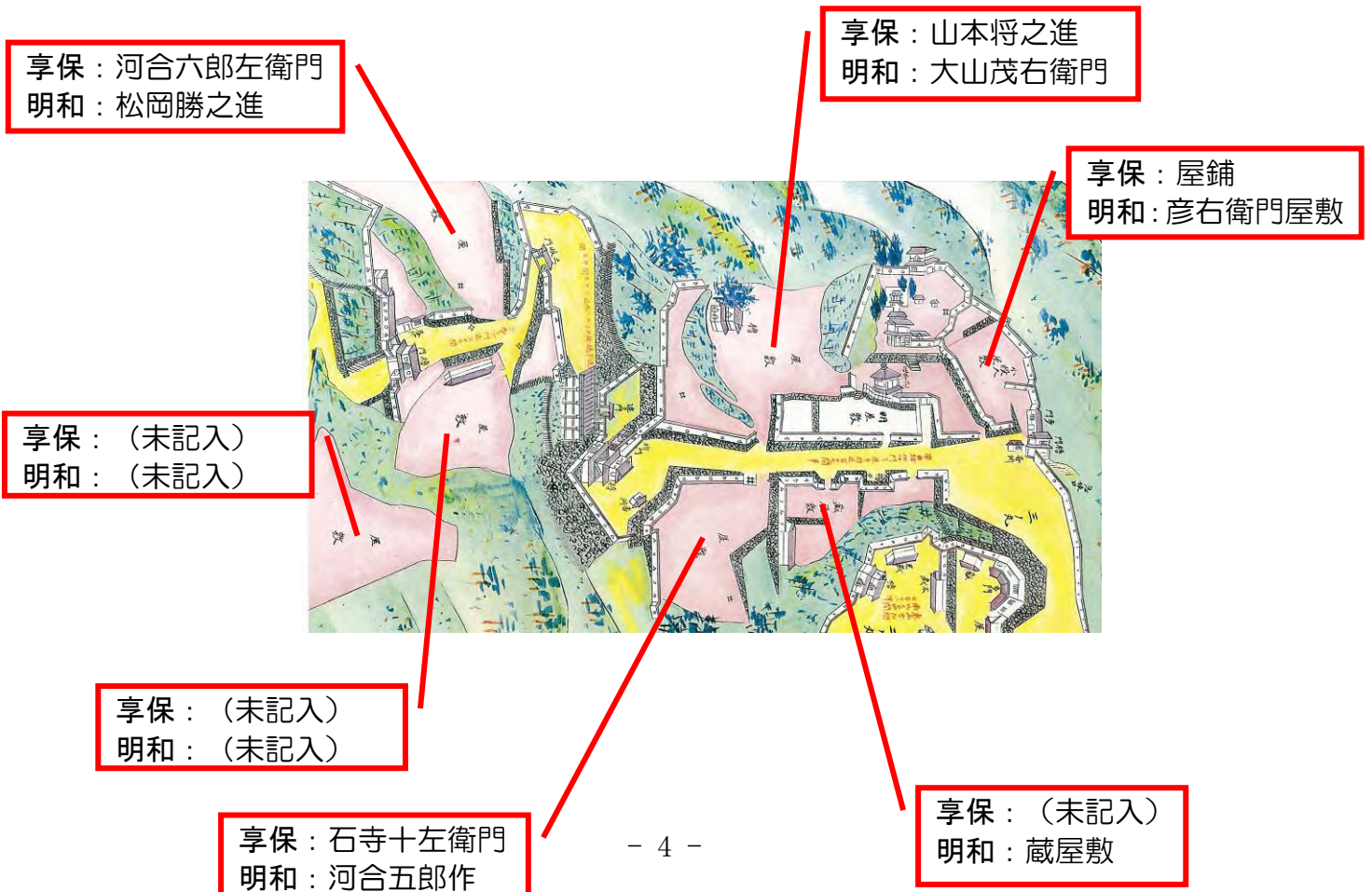
※「正保城絵図」：正保年間（1644～48）に幕府の命により岩村藩が提出した絵図。現在内閣文庫に収蔵されている。岩村城としては現存する最古の絵図であり、また製作時期から、これを提出した丹羽氏（1638年岩村藩入封）の手が加わる前の状況、すなわち松平家乗・乗寿による築城当初の姿が図化されていると考えられている。







濃州岩村城并居屋敷家中屋敷町屋敷絵図（享保ごろ）八幡神社周辺を拡大





一ノ門脇侍屋敷跡 (仮称松岡屋敷)

八幡櫓



「岩村城平面図」(部分) 明和3年(1766)





一ノ門脇侍屋敷跡 (仮称松岡屋敷)

八幡橋

「正保城絵図」(部分) 正保年間(1644~48)